

犬皮膚病の補助粒R&Uによる治験報告(第2報)

牛越 設男¹, 牛越 建治¹, 上杉 隆平², 館岡 修³, 阿部 嗣⁴, 菱山 信也⁵,
末吉 昭治⁶, 末吉 明⁶, 大地 隆温⁷, 福岡 秀雄⁷, 紫野 正雄⁷, 堂ヶ崎 知格⁷

¹ 牛越生理研, ² 上杉ペットクリニック, ³ 浜田山動物病院, ⁴ しのさき動物病院,
⁵ 菱山動物病院, ⁶ 林間愛犬病院, ⁷ 麻布大

リゾープス麴抽出生理活性物質であるRUは、今までに *in vitro* および *in vivo* で次のような効果が判明している。それらは性腺刺激ホルモンの放出を促し、性ホルモンの生成を促進する効果(家兎, マウス), 細胞増殖(ヒーラ細胞, ベロ細胞), 成長促進(ヒメマス), 活性酸素の抑制(ヒト白血球), SODの活性維持(ラット), 過酸化脂質生成抑制(ラット), 白血球貧食能の活性および低下防止(成牛, 子牛), B細胞のマイトジェニック作用(マウス B細胞)などである。

我々は、第75回麻布獣医学会においてR&U(リゾープス麴抽出生理活性物質+乳糖)が犬・猫の皮膚病の補助粒となる可能性を示唆した。そこで今回は、犬の慢性皮膚疾患2例について、R&U投与の治効を報告します。

症例1 ポメラニアン 10歳 去勢雄

2歳頃より会陰部, 尾付近より脱毛が始まり, 頭部, 四肢先端を除く全身の脱毛まで進行した。内分泌性脱毛特有の非掻痒性両側対称性脱毛を呈し, 色素沈着を伴い, 残存する被毛は光沢の無い乾燥した綿毛様であった。

R&Uを投与して10日目, 胸部から発毛が始まり, 20日目では発毛はさらに腰背部にまで及び, 40日目では体幹部全体にそれが認められた。80日目ではほ

ぼ全身が発毛し, 四肢先端まで見られた。被毛は柔らかく光沢があり, 現在も脱毛することなく維持している。

症例2 シェットランドシープドック

13歳 去勢雄

2歳頃より皮膚の赤み, 痒がり, 腰部の毛が抜け出した。プレドニゾロン, ドルバロン軟膏, ネオメドールを常備し, 皮膚が赤くなったときや, 目やにが出るたびに使用した。10歳の頃皮膚の赤み, 痒みが増し, 背中一面脱毛してきたので, 大学病院で受診し, 血液, 性ホルモンなどの検査をしたが, 特に異常は見られなかった。その後主治医が去勢を行ったが好転せず, 12歳で転院した。ステロイドの投与を中止し, チラージンと2硫化シャンプーで対処したが症状は変わらなかった。

13歳(2000年8月)からR&Uとチラージンを併用した。その結果, R&U投与開始1ヶ月頃から発毛が全身で始まり, 2ヶ月後には増毛がはっきりしてきた。その後, チラージン投与量を暫時減らし, チラージンの投与を中止し, R&Uのみを投与した。6ヶ月後, 全身柔らかいふさふさした毛となり, 現在も脱毛は見られない。